

検討の経過

「海とくらしの史料館」は、開館から20余年が経過した現在、来館者数の伸び悩みや施設・展示物の老朽化など様々な課題を抱えている。これを踏まえ、今後の当施設のあり方について検討する場として、「海とくらしの史料館のあり方検討委員会」を設置した。

令和2年度から3年度にかけて、水産・観光・教育・経済団体・利用者など各方面の委員により、現状や課題の把握及び今後の施設のあり方について検討を行った。また、若い世代の意見を聴取するため、高校生を対象としたワークショップ及び市内小学4年生を対象としたアンケートを行った。

年度	回数	時期	議題
令和2年度	第1回	R2.7.26	■説明(施設の現状・課題) ■意見交換
	第2回	R3.1.25	■説明 ・今までに市議会から出た意見について ・専門家から寄せられた意見について ■意見交換
令和3年度	第3回	R3.5.31	■視察 島根大学総合博物館アシカル
	—	R3.10.13	■高校生対象ワークショップ(参加者数:4名)
	—	R3.10～11	■小学生対象アンケート(回答者数:202名)
	第4回	R3.11.15	■協議 ・施設の今後のあり方について ・関係施設や水木しげるロードとの連携について ・にぎわい作りについて
	第5回	R4.2.18	■提言書(案)について

【あり方検討委員会で指摘された主な課題】

①展示について

- ・開館当時から展示内容に大きな変化がなく、新しい発見がない。
- ・どれが地元で獲れる魚なのかわからない、展示の目的がはっきりしない。
- ・深海の魚が上の方に展示してあったり、展示場所がちぐはぐ
- ・実際の魚の生態がはく製だけではわからない(動くものがない)
- ・展示スペースが不足している、また展示ケースなどの設備が不足している。
- ・体験型の展示がない。
- ・「くらし」の展示の内容(民具の種類)が少なく、十分な学習ができない

資料 1

②建物の設備・改修について

- ・建物の全体的な老朽化
- ・収蔵庫が不足しており、史料を収集しても適切な保管が行えない。
- ・会議室等(体験学習に使える部屋)がない。
- ・階段の手すりや授乳室がない。

③その他

- ・来者数の減少(にぎわい作りの必要性)

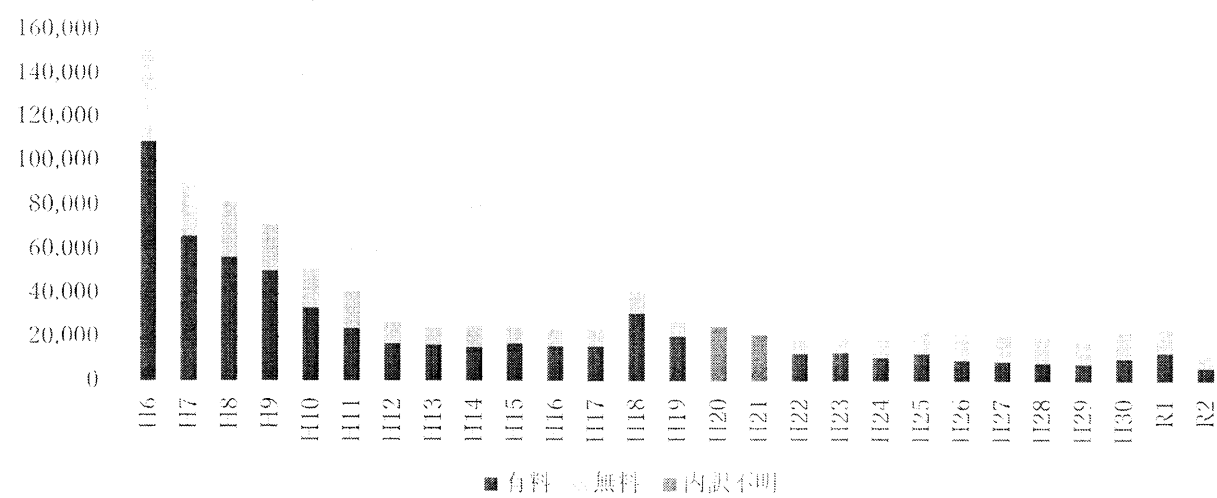
資料 2

海とくらしの史料館の概要

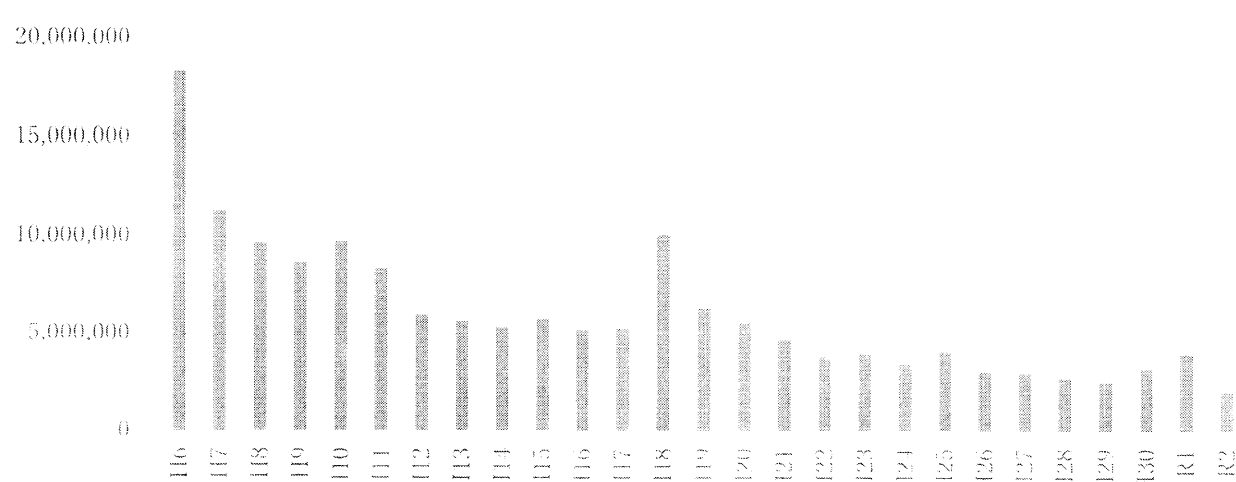
①概要

所 在 地	境港市花町 8 番地 1
休 館 日	毎週火曜日及び年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日まで）
開 館 時 間	午前 10 時 から 午後 5 時 まで
延 床 面 積	1,195 m ²
構 造 ・ 規 模	木造 2 階建、鉄骨造 2 階建 （展示室 4、企画展示室 1、ギャラリーしらかべ 1、事務室 1、収蔵庫 4）
供 用 開 始	平成 6 年 4 月
入 館 料	・一般 410 円 ・小・中・高校生、外国人 100 円 ・幼児、70 歳以上 無料 ・障がいをお持ちの方 本人と介助の方 1 名無料 ※その他団体割引・各種割引あり
史 料	はく製：700 種類、4,000 点、民 具：約 1,600 点

②入館者数の推移



③入館料の推移



海とくらしの史料館のあり方検討委員会 委員名簿

所 属	役 職	氏 名	備 考
鳥取県水産試験場	場長	宮永 貴幸	R2.7.29～R3.3.31
	場長	石原 幸雄	R3.4.1～
境港水産振興協会	お魚ガイド	景 愛子	R2.7.29～
境港市観光協会	事務局長	古橋 剛	R2.7.29～
境港青年会議所	理事長	野々村 崇	R2.7.29～R2.12.31
	理事長	赤石 周平	R3.1.25～
境港総合技術高校	教諭	檜山 盛生	R2.7.29～
境港市小学校校長会	会長	金森 俊治	R2.7.29～R3.3.31
	会長	築谷 直人	R3.4.1～
利用者代表		面谷 明俊	R2.7.29～
		渡部 万里子	R2.7.29～
		島田 洋子	R2.7.29～

事務局

所 属	役 職	氏 名	備 考
境港市教育委員会	教育長	松本 敏浩	R2.7.29～
境港市教育委員会 生涯学習課	課長	黒崎 享	R2.7.29～R3.3.31
	課長	松本 昭児	R3.4.1～
	文化体育係長	竹内 勝	R2.7.29～
	主事	門脇 優衣	R2.7.29～R3.3.31
	主事	松本 麻美	R3.4.1～
境港市産業部	次長兼観光振興課長	木村 晋一	R2.7.29～R3.3.31
	観光振興課長	坂田 卓宏	R3.4.1～
境港市文化振興財団	常務理事	佐々木 史郎	R2.7.29～
	次長	佐々木 司	R2.7.29～
	海とくらしの史料館長	大池 明	R2.7.29～

海とくらしの史料館のあり方検討委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 海とくらしの史料館の今後のあり方を検討するにあたり、広く市民の意見を反映させるため、海とくらしの史料館のあり方検討委員会（以下「委員会」という。）の設置及び運営に関し必要な事項を定める。

(所掌事務)

第2条 委員会は、海とくらしの史料館の今後のあり方の検討について、市長の求めに応じて、意見を述べるとともに必要な助言等を行う。

(組織)

第3条 委員会は、10人以内の委員で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者の中から市長が委嘱する。

(1) 別表に掲げる各種団体の代表者又は当該団体の代表者が推薦する者

(2) 前号に掲げる者のほか、市長が適当と認める者

3 前項の規定により委嘱された委員に欠員が生じた場合は、市長は速やかにその後任の委員を委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、1年以内において市長が定める期間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を各1人置く。

2 委員長は、委員の互選により定め、副委員長は、委員の中から委員長の指名によりこれを定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、市長が招集する。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。この場合において、会議の開会までに委任状の提出があった委員は、出席したものとみなす。

3 会議の議長は、委員長が務める。

4 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、生涯学習課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

資料 4

別表（第 3 条関係）

鳥取県水産試験場
一般社団法人境港水産振興協会
境港市観光協会
一般社団法人境港青年会議所
鳥取県立境港総合技術高等学校
境港市立小学校長会
海とくらしの史料館利用者

海とくらしの史料館ワークショップ

参加者：県立境高等学校生徒 4 名

実施日：令和 3 年 1 0 月 1 3 日

< 生徒に対する質問 >

- ・施設見学以前に来館したことがあるか？
⇒有：2 名（小学生の頃） 無：2 名
- ・施設を以前から知っていたか？
知っていた：2 名 知らなかった：2 名（米子市・南部町在住）
- ・入館料は妥当か？
妥当：4 名
- ・どんなイベントや展示があると来たいか？
⇒特に意見なし

< 生徒の意見（施設に求めるもの） >

- ・魚にちなんだ菓子
- ・生きた魚の展示
- ・大きな魚の展示
- ・魚の生態が分かるよう、ナレーション付きの動画
- ・施設を P R する看板
- ・施設にちなんだキャラクター
- ・若い世代は韓国の商品に興味があるので、韓国の食べ物が売ってあると良い。
- ・地元で獲れる魚より、地元で見ることが出来ない魚が展示してあった方が良い。
- ・学習スペースがあると良い。

海とくらしの史料館に関するアンケート

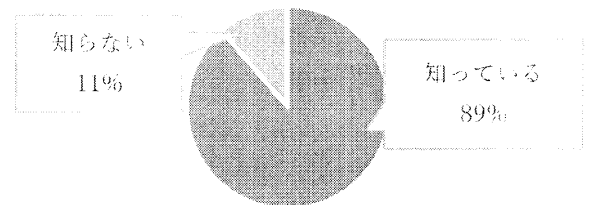
対象者：市内小学4年生202名

実施期間：10月26日～11月5日

【問1】海とくらしの史料館を知っていますか？

①知っている…179名

②知らない … 23名

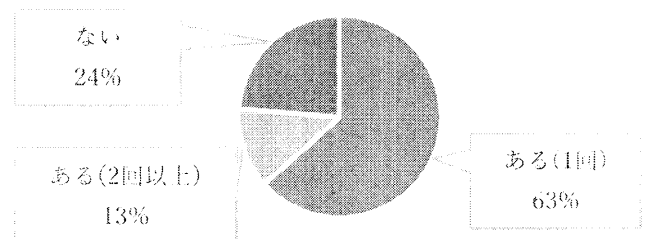


【問2】海とくらしの史料館に行ったことがありますか？

①ある（1回） … 128名

②ある（2回以上） … 26名

③ない … 48名



【問3・4】海とくらしの史料館の良かったところ・面白かったところはどこですか？

（多かった意見）

・魚のはく製について。

（種類がたくさんある、詳しい説明があって勉強になる、

マグロ、カメ、サメ、ワニ、リュウグウノツカイ等固有名詞も）

・漁船に乗れて楽しい。

・クイズ・スタンプラリーが面白かった。

・ハリセンボン通りが楽しかった。

・ボタンを押して、魚が顔を出すコーナーが面白かった。

・いろいろなイベントが開催されていて楽しい。（手ぬぐいひらひら等）

・昔の道具や、漁業の道具も見られて面白い。

・色々な魚と館長の大きさを比較するポスターがよかった。

・マンボウを持ってみることができて良かった。

・塗り絵や本が置いてあってよかった。

・案内図があって、わかりやすかった。

・（水族館は魚が動いてよく見られないけど）はく製は見やすくてよかった。

・職員の人丁寧に魚の説明をしていた、優しかった。

・きれいに置いてあってわかりやすかった。

・海の魚が蔵で飾られているところが良かった。

・二階の景色が見られるところのモニターに映る流れ星がきれいだった。

資料6

【問5】海とくらしの史料館にあったらいいと思う展示やイベントは何ですか？

○展示してほしいもの

- ・魚の映像、魚の生態についての展示（生活や動き）
- ・みんなの知らない魚の秘密
- ・来場者の描いた絵
- ・はく製（境港の魚、絶滅危惧種、古代のサメ、人喰いザメ、カジキ、大きなアジ）
- ・その他（恐竜の骨、サメや他の魚の骨、氷漬けの魚）
- ・潜水艦

○イベント

- ・魚のクイズ（魚の種類、名前等）※景品付き（お寿司）
- ・クイズラリーやスタンプラリー
- ・ゲーム（チーム戦で、魚をスマホ等で認証して集める）
- ・（深海魚の）絵のコンテスト
- ・海くらのキャラクターが登場するイベント
- ・四季それぞれの魚のイベント
- ・季節のイベント（ハロウィンやクリスマス）、お祭り
- ・魚の手づかみイベント、マグロ解体ショー
- ・イルカに乗れるイベント
- ・無料親子クッキング
- ・魚のポストカードづくり
- ・ビンゴ大会やキーワードゲーム
- ・紙すき体験

○コーナー

- ・体験コーナー（タッチブル、昔の道具）や試食コーナー
- ・釣り堀や射的（有料）

○その他

- ・限定グッズの販売（魚の絵のカバンや、ハンカチ、髪ゴム等）
- ・魚や色々な生き物の図鑑を置いてほしい
- ・屋台の設置（魚の販売）、海水で作ったゼリー
- ・魚の説明にふりがなをつけてほしい
- ・会場移転（場所を知らない人が多い）
- ・季節ごとにレイアウト変更
- ・年に1回のお祭り

第 1 回海とくらしの史料館のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和 2 年 7 月 2 9 日（水） 1 9 時 0 0 分～ 2 1 時 0 0 分

会 場 上道公民館 集会室

出席者【委員会委員】

宮永 貴幸委員（鳥取県水産試験場 場長）

景 愛子委員（境港水産振興協会 お魚ガイド）

境港市観光協会 福留 康次課長

（境港市観光協会 事務局長 古橋 剛委員の代理）

檜山 盛生委員（境港総合技術高等学校 教諭）

金森 俊治委員（境港市小学校校長会 会長）

面谷 明俊委員（海とくらしの史料館利用者代表）

渡部 万里子委員（ 〃 ）

島田 洋子委員（ 〃 ）

【事務局】

市教委（松本教育長・黒崎生涯学習課長・竹内文化体育係長・門脇主事）

市産業部（木村次長兼観光振興課長）

市文化振興財団（佐々木常務理事・佐々木次長・大池館長）

欠席者【委員会委員】

野々村 崇委員（境港青年会議所 理事長）

< 日程 >

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 委嘱状交付
4. 委員長選出及び副委員長の指名
5. 説明事項
 - （1）委員会の開催目的・スケジュール等
 - （2）現状報告
 - （3）課題、過去に実施した会での意見
6. 意見交換
7. 閉会

資料 7

<会議録（要旨）>

◆ 1 は省略

◆ 2. 教育長あいさつ

教育長 海とくらしの史料館は今年で開館 26 年を迎える。施設の老朽化に加え、入館者は減少傾向にあった。しかし、ここ数年は館長を始めスタッフの皆さんの尽力により、さまざまなイベントを行うなどして入館者数はやや回復しつつある。一方、議会からは当館のメインのテーマである「海」「くらし」をどう生かしていくのか（特に「くらし」のあり方）、その中でどうにぎわいを求めていくのか、もっと他の機関（例：水産試験場、観光協会など）と連携を図っていく必要があるのではないかという指摘をいただいている。これらを受けて、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきながら、当館を市民に愛される施設にしていきたい。

◆ 3 は省略

◆ 4. 委員長選出及び副委員長の指名

・委員長について

※委員からの推薦はなし

事務局 境港市観光協会の古橋委員を推薦。

委員 特に異議なし。

・副委員長について

事務局 欠席の古橋委員に代わり利用者代表の面谷委員を指名。

面谷委員 当館は自宅の近くにあり、昔から親しんできた場所なのでこのような形で携わることができるのは感慨深い。さまざまな意見を出して、今後の当館のあり方について考えていきたい。

◆ 5. 説明事項

（1）委員会開催の開催目的・スケジュール等

事務局 以下の①～③について説明

① 委員会の開催目的

② 主な議題（予定）

③ 委員会の開催スケジュール

※委員から特に質疑なし

（2）現状報告

事務局 以下の①～⑧について説明

① 入館者推移（年度別、令和元年度の月別）

② 入館料推移（年度別）

③ 館内施設・設備

④ 常設展示

⑤ 令和元年度開催のイベント、展示スペース提供、出張展示、その他

- ⑥ 利用者の声
- ⑦ 今後の計画
- ⑧ 現在の運用方針

委 員 地元の小学生が来ることはないのか。

事務局 ほとんどない。米子市、倉吉市などから校外学習等で来てくださることはある。

(3) 課題、過去に実施した会で出た意見

事務局 以下の①～④について説明

- ① 建物の老朽化について
 - ② 展示に関する課題
 - ③ その他の課題
 - ④過去に実施した会で出た意見
- ※委員から特に質疑なし

◆ 6. 意見交換

委 員 ・市内の小学生の利用がないという話はその通りである。小学校3年生が、「昔のくらし」の学習で昔の生活用具等を実際に見て学ぶ機会があるが、当館はその対象の用具が少ないため、現在は山陰歴史館（米子市）で学習をしている場合が多い。山陰歴史館は交通のことを考えたらロスが多いので、当館で「昔のくらし」のコーナーがもっと充実すれば市内の小学生の利用も増えるのではないか。

・水族館ではなく、ハクセイというのが非常に珍しいので楽しいという気持ちにはなるが、また行こうとはならない。利用者の声にも「魚 が動かなくてつまらない」という意見があるので、実際に動いている姿を見られると（例：スマートフォンと連動するQRコード）ハクセイのコーナーでしっかり立ち止まって見てくれる人が増えるのではないか。

委 員 ・県外からの旅行者へ向けてガイドを行っている（魚が獲れている場所、新しくできる市場の説明など）。秋には水産業の勉強で兵庫県や岡山県の小学生にガイドを行っている。ガイドの際には、必ず海とくらしの史料館のパンフレットを同封したり、ガイド中に「こういった施設もあります」と紹介したりしている。

・2度以上行きたいかというのが微妙なところ。自分も久しく行っていなかったなので先日館長に案内してもらった。ハクセイは綺麗だが、展示のコンセプト（観光客を取り込みたい？市民向け？）がはっきりしない。それは境港の魚についての展示スペースがひとつも無いからである。境港では200種類ほどの魚が獲れるが、どの魚が獲れるのかが全くわからない。

・館内に音がない。音楽もそうだが、ところどころで押すと展示の説明をしてくれるボタンがあるとよい。

・あと2年ほどすると市場も完成する。そちらでも一般のお客様向けの展示スペースを作る予定なので、そことも流れを作っていきたい。

委員 ・自分も昔は足を運んでいたが、展示内容はハクセイがメイン。代わり映えが無く、足が遠ざかってしまっていた。

・境港やその近隣の海に関係する展示がないのが寂しいと感じる。種類ごとに現在ハクセイを展示しているが、海外の魚もいるので例えば海ごと（インド洋、大西洋、東シナ海、太平洋、山陰の海など）にしてはどうか。せっかく色々な魚がいるのでそこで海を表現できないか。地元の子どもたちにこのまちの海や水産業の素晴らしさを伝えられる施設になってほしい。

委員 ・新型コロナウイルスの影響で観光客が少なくなっているが、今は教育旅行に関して例年と違う動きが見られる。通常は関西などに行くが、コロナの感染拡大のため今年の秋に関しては近場で、といった傾向である。ただ、そういった客を誘致するとなるとどうしても旅行会社が間に入ってくる。館長のお話で「過度に観光に偏った運用はしない」というお話があったが、教育施設という運用方針なら子どもたちを取り込んでいくべき。

・ガイドをつけるとなると人間的な問題も生じてくるが、やはり展示に関する説明が欲しい。

・イベントは中庭でのイメージがあるが、館内で行えるイベント（例：ワークショップなど体験もの、映像設備を使った学習スペース）がもっと増えるとよい。

・外観がとても立派だが、中で何を行っているのかがわかりにくい。オープンな感じが欲しい。

・他の施設との連携（例：直売センター、水木しげる記念館、水木しげるロード、SANKO夢みなとタワー）

・イベントとの連携（例：桜まつり）

・GWや盆は台場公園を水木しげるロードの駐車場として使用している。そういったお客様を誘致したい。

・近々、市内の観光施設の利用者がインターネットで答えられるアンケートの作成に取り組む予定。当館も取り入れられればと考えている。

・共通チケットや無料入館者のあり方についてどう考えているのかが知りたい。こちらでも大々的に宣伝してよいのかほどほどに売っていくのか悩んでいるところ。

・ミュージアムショップの導入を検討してほしい。伯州綿、弓浜緋のグッズ等を置いたらどうか。以前SANKO夢みなとタワーにあったが、なくなってしまったためどこで買えるのかの問合せが来ることがある。

委員 ・学校で漁業や海洋生物を教えている視点から当館を見ると、地域の人が漁業や海洋生物に興味を持つことのできる、魅力のある場所という風を感じる。

・ハクセイにこだわっているという点がネック。実際に魚たちが海でどんな生

活をしているのかハクセイでは伝わらない。映像で置き換えるなどの方法を併せて行くとより学べる施設になる（漁法、海の違いによる魚の違い）。以前卒業生が水中映像を撮り、後輩たちの学習に役立ててくださいと提供してくれたことがあった。自分でイメージすることと実際の映像には大きな違いがある。「ふだん見られない」「ここでしか見られない」がもっと当館に増やせないか。（例：3D映像）

- ・貿易に関する歴史等も時系列で（どのように境港が栄えてきたのか）学べる展示等も欲しい。
- 委 員
- ・キャンドルナイトを毎年当館で行っているが、館長始めスタッフの皆さんのホスピタリティが良さ。イベントがやりやすい。少ない人数でこれだけのイベントを回し、来館者数も増えているのはすごいこと。
 - ・開館当時（ミュージアムショップを開いていた時期もあったし、「小学生は必ず当館に行く」という時代もあった）からよく知っている。できた当時と今は違うのだから、コンセプトの見直し、議論が必要。
 - ・今は「居場所」（市民が安心していられる場所、刺激がもらえる・新しいものが得られる場所）が強く求められている。「図書館があるから」ではなく、市内の公共施設が一体となってそういう場所になっていくべき。当館も小さいがどこかほっこりできる場所なので、そういった場所になり得ると思う。
 - ・運営にリピーターの市民が関わったりすることで、「協働のまちづくり」にもつながる。そのためには繰り返し来てもらえる工夫が必要。極端なことを言えば市民から3割しか取っていないのであれば入館料は取らずに、ワークショップやイベントなど活動が必要な時にのみお金をいただくなどすればよいのでは。
 - ・小さい子どもはとても当館を楽しむ（みなと丸、スタンプラリー）。
 - ・グッズがとても充実している。しかし、受付で注文する形だとわざわざ言いに行く人は少ないし、売り切れていたこともあった。自動販売機のような買いやすい状況にすればスタッフが少なくても対応できるし、ふらっと立ち寄って購入する人が増えることも期待できる。
 - ・今は誰でも「インスタ映え」する場所で写真を撮り、撮った写真をSNS等で見て新しいお客さんの確保に繋がることもある。良い写真スポットを数か所作り、案内するとよい。
 - ・子どもは展示をあまり見ないが、大人は熱心に見ている。2階の額に入ったはく製はあまりよく見ずにスルーしてしまう。
 - ・階段に手すりがない。授乳室もないという話があったが、子育て世代に向けた運用をするなら必要。建物自体の改修すべき点は、小さいところから少しずつ直していけばよい。
 - ・友人（東京在住。境港が好きで年に数回来る際には必ず当館にも来館してくださっている）から、今後の当館のあり方について意見・激励をいただいた。こ

ういったファンがいるのだということも是非知っておいてほしい。

- 委員
- ・魚の「止まっている」姿を見られることは魅力だが、映像などをプラスして魚の「生きている」姿を見られたらもっと良くなる。
 - ・館内が海になるような演出がほしい。プロジェクションマッピングなどを使えないか。
 - ・イベント案：海くらしおさかなスケッチ大会（館内を見て回って好きなハクセイをスケッチする）、海くらしに関わる絵本の読み聞かせ、「海くらしから海釣り」（館内で勉強し、実際に海岸に釣りに出かける）、「おさかな検定 in 海くらし」（市内で行っている検定を当館で行う、合格者をボランティアスタッフとして当館で来館者に解説を行ってもらい）、「海くらしバックヤードツアー」（ふだんの入館では見ることのできない場所を案内）、「ナイト海くらし」（夜に光る魚などを取り入れ、夜ならではの演出・館内の雰囲気を楽しむ、キャンドルナイトの運営委員会さんとも連携しては）、「海くらしクラフトデー」（海に関する工作：スノードームの海版、まぐろのぼり、流木を使ったアート、貝を使ったアクセサリ、サメの歯を使ったキーホルダー）（くらしに関する工作：機織り、綿繰り）
 - ・他機関との連携案：総合技術高等学校（タッチプール、学生さんに案を出して企画・実行してもらい、加工食品を当館で販売）、市民図書館（夏休みのおさかな研究）
 - ・年間行事とつなげる（七夕、ハロウィンなど）
 - ・みなと丸の運転席を開放できないか。子どもは喜ぶし、親にとってもよい写真スポットになると思う。
 - ・「食べる」「買う」をプラスできないか。
 - ・「誰でも」楽しめる施設か。小さい子ども、目の不自由な方、高齢の方、外国の方などにとって、不自由な部分がないか今一度見直す必要がある。
 - ・広報活動も重要。館長がDARAZ FM等に出演できるとよい。
 - ・来るたび新しい発見がある・知識が身につく施設になってほしい。
- 委員
- ・境港市民がどれだけ利用しているのか知りたい。海とくらしの史料館自体を知らないという方も多くいらっしゃるのではないかな。
 - ・観光客をターゲットにすると、リピーターは期待できない。ハクセイを見て「こんなもんか、すごかったな」で終わってしまう。何回も来ている人はゼロに近いのでは。また誰か連れてもう一度来ようとはならない。
 - ・「ハクセイが展示されています」でとどまらない展示が必要。先ほど「境港に関する展示がない」という話があったが、そういった地域に関することを盛り込むには他機関との連携が必要。民具のことも含め、当館が全て抱え込まなくても、分担すれば何か新しいことができるのではないかな。
 - ・昨年、八尾市立歴史民俗資料館（大阪府）へ行った際、入口のテレビで綿に関する解説の映像（作り方や織り方）を選択して窓口で申請し、見られると

いうシステムを取り入れていた。参考にできるのでは。

- 事務局 ・当館は「海」「暮らし」という2つの大きなテーマで展示を行ってきた。平成24年頃に2階にあった民具の常設展示をやめ、必要な時のみ出す（小学生が社会科学習で見学に来るときなど）形をとるようになった。当館のスペースでは、この2つのテーマを両立して充実させることが難しい。市では、旧誠道小学校の今後の使い道を検討している。松江市美保関歴史・生活体験史料館（中学校の跡地を利用）のように民具を当館とは別の場所で展示するというのもひとつのあり方と考えているが、委員の皆さんの意見を頂戴したい。
- ・今回の委員会はイベントや展示などソフトの面について主に意伺っている。授乳室や会議スペースのことなど、ハードな面については敷地が限られている。住宅地に囲まれている関係で、増築等も難しい。開館当時の職員から聞いた話によると、第2展示室の上部分が設計上は床を敷いて使える（建築基準法をクリア）ようになっている。将来的に床を敷いてスペースを増築して利用できるようになっているが、その利用方法についてもご意見を伺いたい。

事務局 鳥取県立博物館ほどの広さがあればもっと量を充実させられるかもしれないが、今の広さだとどちらもということが難しい。今ある民具は収蔵庫にしまっている状態。

委員 収蔵庫の中にしまっている民具を見たことがあるが、系統立てて集めてみると実は何もないなと感じた。部分的にぼつんとある状態。民具を展示するといっても、見て当時の生活がわかるような展示は今の中身ではできない。

委員 魚関係の民具はあるのか。

事務局 網等は若干あるが、委員の発言通りトータルで漁業を表せるものはない。

- 委員 ・かろうじて綿に関することは一連の流れを表せることができるかな、というのが現状。以前綿の展示を行った際は、道具等を他の市から借りた。民具に関しては各小学校に少しずつあるのではないかと（境小学校はある）。そういうものを集めてくれば系統立てて展示ができるのでは。
- ・「暮らし」の展示のあり方について課題とされているが、「漁業に関する暮らし」「海に関する暮らし」にしてはどうか。「香美町立ジオパークと海の文化館」（兵庫県香美町）が参考になる。漁業に関する暮らしの展示にすれば、魚の展示ともつながる。
- ・スペースが足りていないというのは大きな問題で、事務局の出した2階スペースの増築などで改善されればソフト面でもできることが増えると思う。

事務局 （補足）「香美町立ジオパークと海の文化館」について

兵庫県香美町にある町営の施設。山陰海岸のジオパークのジオラマ、地元（北前船で栄えた地域）の海について、漁具・漁法についての展示。特に漁法の展示にはカニかごの立体模型があり、わかりやすい展示がされている。また、香美町で獲れた魚が最終的にどんなものに加工されているのか（缶詰など）という展示もある。獲れてから消費者に届くまでの一連の流れで展示がされ

ており、とてもわかりやすい。

事務局 委員の皆さんからの「境港に関する展示」がないというご意見はごもっともである。今後こういった施設を参考に考えていきたい。

委 員 境港で獲れる魚やそれがどのように私たちに届くのかという展示を考えていくには、ますます他機関との連携が重要になってくる（例：旬の魚など）。

委 員 水産振興協会でも境港の魚についての説明などはパンフレットやパネルにしている。

委 員 パンフレットだけでは伝わらないのではないか。パネルのようなスペースを当館に設置するとよい。

委 員 市場にそういった展示をつくる予定だが、市内で同じような内容のものが重複するのはどうか。

委 員 境港市の観光施設の1番の欠点は線がないこと。線をつなぐものは機関同士の連携なのではないか。道路などハードなつながりだけでなく、情報のつながりも求められる。「自分のところでこの情報があるから出さない」ではなく、「こっちに行けばもっとこんな情報がある」という連携の仕方をしていきたい。

事務局 当館のメインは第2展示室のチョボリン（マンボウ）をはじめとしたハクセイの常設展示だと思うが、これは開館当時、専門業者に依頼しレイアウトしていただいたもの。26年経過して、内容自体は変えられないかもしれないが、展示の方法を変えていかなければいけないのかもしれないと考えている。第2展示室のケースに入った展示についても同様に意見を伺いたい。

委 員 ハクセイについて今回はネガティブな意見が多いが、逆にハクセイでこれだけしっかり展示している施設は珍しい。中途半端にするよりこれは生かしていくべき。問題は見せ方。一緒に並べるよりは離れた方がよいと思う。工夫すれば生きてくる（例：SANKO夢みなとタワー「日本一低いタワー」）。ポジティブに活かす見せ方やキャッチコピーを考えるとよい。

委 員 ハクセイの良さは「どこからでも見られる」ところ。写真では一方向からしか見られないが、ハクセイならどの角度からでもじっくり見ることができる。その良さを生かしたい。境港という地域を展示では感じられない。

委 員 深海魚が上の方であって、浅いところに生息するサメが下の方に展示されている箇所があり、海や海洋生物のことをよく知っている人を見ると非常に違和感が強い。もっと海を表現してほしいと感じた。後ろに海の写真を入れたりするのはどうか。

委 員 ケース内の展示を見ると、「いろいろな標本があるなあ」で終わってしまう。他の施設だと、ハクセイがひとつぶら下がっていると目を引くが、種類が多すぎるが故に活かされていないように感じる。種類ごとに整然と並べるより、もっと海の中をイメージして深さごとに色々な生き物がいたりする展示の方が楽しいのではないか。小さいものの展示が課題ではないか。

委 員 深さごとに自分が上がり下がりする通路（スロープ？）があると面白いのでは

資料 7

ないか。

委 員 南から北に向かって海の水温も変わるので、魚たちの色合いも変わる。そこも表現できれば、より深い学びを得られる展示になる。

事務局 8月のイベントの講師、鈴木香里武氏は水族館のプロデュースも行っているので、意見を伺って第2回以降に共有したい。

委 員 サメに関する化石、絵、模型などという展示も借りるなどして導入してはどうか。県西部の人が東部のものを見に行く機会を設ける。

市民の学習にも役立つし、外部の集客も期待できる。

◆ 7は省略

第2回海とくらしの史料館のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和3年1月25日（月）19時00分～20時30分

会 場 上道公民館 集会室

出席者【委員会委員】

宮永 貴幸委員（鳥取県水産試験場 場長）

景 愛子委員（境港水産振興協会 お魚ガイド）

古橋 剛委員（境港市観光協会 事務局長）

赤石 周平委員（境港青年会議所 理事長）

檜山 盛生委員（境港総合技術高等学校 教諭）

金森 俊治委員（境港市小学校校長会 会長）

面谷 明俊委員（海とくらしの史料館利用者代表）

渡部 万里子委員（ ）

島田 洋子委員（ ）

【事務局】

市教委（松本教育長・黒崎生涯学習課長・竹内文化体育係長・門脇主事）

市産業部（木村次長兼観光振興課長）

市文化振興財団（佐々木常務理事・佐々木次長・大池館長）

欠席者【委員会委員】

檜山 盛生委員（境港総合技術高等学校 教諭）

< 日程 >

5. 開会

6. 教育長あいさつ

3. 説明事項

（1）委員会の今後の進め方について

（2）第1回委員会で出た意見について

（3）市議会から出た意見について

（4）専門家の意見について

4. 意見交換

5. その他

6. 閉会

資料 7

<会議録（要旨）>

◆ 1 は省略

◆ 2. 教育長あいさつ

教育長 前回の会議では、それぞれの立場から示唆に富んだご意見を多くいただいた。この海とくらしの史料館については、市議会の皆さまも非常に関心を持っておられて、「しっかりと多面的に検討してこれからの方向性を示してほしい」という宿題をいただいている。例えば「まちづくり」の観点として、他の施設との関連性、市内唯一の史跡「鳥取藩台場跡境台場跡」と隣接しているという立地の活かし方などのご意見をいただいている。また、勝手ながら、この委員会は今年度中に3回開催し、あり方についてまとめ、示す予定であったが、さらに時間をかけて議論する必要があると判断した。そのため、もう1年延長し、引き続き議論をしていただきたい。今後の進め方の案については、後ほど事務局から説明する。また、市議会から出た意見なども受けて、これからの意見交換をしていただきたい。

◆ 3. 説明事項

（1）委員会の今後の進め方について

事務局 説明

※委員から特に質疑なし

（2）第1回委員会で出た意見について

事務局 以下の①～⑤について説明

⑨ 海の展示について

⑩ くらしの展示について

⑪ にぎわい作りについて

⑫ 他機関との連携について

⑬ 建物の改修について

※委員から特に質疑なし

（3）市議会から出た意見について

事務局 以下の①～④について説明

④ 海の展示について

⑤ くらしの展示について

⑥ その他展示に係ることについて

④にぎわい作りについて

⑤他機関との連携について

※委員から特に質疑なし

（4）専門家の意見について

①清末氏について

②清末氏からいただいた意見について

※委員から特に質疑なし

◆ 4. 意見交換

面谷委員 学習施設という点で、教育の現場として利用されていないというのは大きな問題。第1回委員会でも金森委員より、民具について子どもたちが見ることができるものが少ないというご意見があった。小学校の社会科の副読本で境港について学ぶ冊子が作成されている。内容を教えるとき、その冊子の内容のみで完結しているのか。例えば、港について、魚や漁業について、民具について、歴史についてなどが書かれているが、それらを教えるために利用できる場所が海とくらしの史料館なのではないか。教える側として、当館にどのような不便を感じているか。

金森委員 昔のくらしについて学習をする時、実物を見るということは非常に大切。子どもたちに見せるのであれば、たくさん昔のくらしについての道具がある施設へ行きたい。近辺で探すと、山陰歴史館などが当館に比べて展示も多く、充実しているので、そちらに行く。

また、市議会から出た意見のうちの、美保関沖事件や玉栄丸などの戦争・平和に関係する展示の常設については非常に興味深い。小学校6年生で平和学習を行うが、広島原爆や大山口列車空襲についてクローズアップされ、境港の戦災について子どもたちが学ぶ機会はあまりない。最近玉栄丸については、根平雄一郎氏が小学生向けに絵本を発刊され、よりこれらの事件が身近に感じられるようになった。このような流れの中、くらしについての展示より、平和学習についての展示にする方がより小学生が学べる展示になる。常設展示に加え、実際に戦争を経験した方の語り等も聞くことができれば、なおよい。

宮永委員 衣食住の「食」についての展示がない。「食」にスポットを当てるのがよいと考える。「魚離れ」が進み、魚食普及について取り組む中で水産業者のアプローチだけでは手が回らない部分もある。是非食育についても、応援をさせていただきたいと思っている。伝統的な食文化について、境港は鳥取県内でも特殊な地域だと感じるので、境港の食文化を伝える施設というあり方も検討してほしい。また、水産試験場の立場として、議会から出た「近海の手から獲れた珍しい魚類の収集・はく製化」について意見が出ているが、水産試験場には珍しい魚が持ち込まれる。非常に珍しい魚は冷凍保存しているものもある。これまではそういったものを入手した際鳥取県立博物館に連絡をし、不要という回答をいただいた場合は廃棄するようにしていた。水産試験場は博物館のような役割は担っていないため、非常に珍しいものを入手できても廃棄するという現状がある。もし今後採集・はく製化が現実となるなら、水産試験場に声を掛けてほしい。

面谷委員 魚の骨格標本は、作製が難しいか。魚の骨の構造が見られれば、また違う側面の学びが生まれると思う。

資料 7

- 宮永委員 骨格標本はアルカリ性の液で魚の肉を溶かして作製するが、その後放置するとどうしても黄ばみ、縮んでしまう。また、魚の細かい骨を貼り合わせる作業もある。魚は進化するにつれて、骨の多いものから少ないものになる。そういった気づきをするきっかけになったり、食育という面でも魚の骨について知ったりできるとよい。現物による骨格標本の作製は非常に難しい。模型だと可能かもしれない。
- 古橋委員 先ほど面谷委員から骨格標本の話があったが、現物の作製が難しければ、データの活用、学校のタブレットやパソコンなどの活用をしてはどうか。ただそこに展示がしてあるものに子どもたちが興味を持つのかというところが疑問。専門家の方による展示や学びについての意見があったが、実際にどのように生きているか、動いているかなどを学ぶためにデータを活用していくとよい。また、人材の育成については、時間やお金がかかる。育成ができるのが一番良いのだが、難しければ音声ガイドなどの導入や、水産振興協会のお魚ガイドさんなど他の機関に協力をお願いすることも検討してはどうか。
- 景委員 新型コロナウイルスの影響で例年よりツアーの実施が少ない状況だが、来年度に向けて魚食普及の方たちと行う料理教室などの話を市の水産商工課と協議している。これまでも何回か水産振興協会では料理教室は行っている。市場や水揚げに関しては、境港の小学生のお客さんは最近少なくなっている。小学5年生は例年社会科見学で来ており、スライドと現場の見学で1時間程度。その他「おさかな動画」などを撮影し給食の時間に流すなどして紹介したり、カードなどを作成したりして普及活動に努めている。魚の外見を知っている人は多いが、骨など内側の部分を知らない。古橋委員から意見があったように、捌き方などの動画をその魚のはく製の近くで流し、そこでどんな栄養が含まれているかなどを説明するとよい。
- 古橋委員 当館は展示スペースが不足しているというのも大きな課題。新しい市場が完成するため、連携を図りたい。
- 景委員 おさかなロードもあるので、流れを断ち切らずに連携するようなツアーもあってよいのではないかな。
- 宮永委員 展示や連携に関しても、流れ、ストーリーが必要。どんな場所に住んでいて、どうやって獲られて、どうやって食べられるかという一連の流れがあれば子どもたちの頭にも入っていきやすいと思う。また、先ほどの骨格標本の話だが、ソフテックスが扱っているレントゲンのようなものを用いた方が展示には扱いやすいと思う。
- 赤石委員 まちづくりの観点から意見を述べると、VRなどデータの活用が今後大切になる。子どもに「はく製を見に行こう」と言っても興味を示してもらえない。船に乗れる場所などと言って案内すると喜んでもらえるので、体験ができる場所として時代に合わせた形にするのがよい。自分が幼い頃に当館ができてから内容があまり変わっていないというのが一番の問題点ではないかと感じ

る。また、基本的な耐震強度の話や、避難場所としての活用について検討の意見は出ているか。

事務局 建物については、酒蔵を改造した部分と新たに建て増しした部分があり、建て増し部分は当然耐震強度の基準をクリアした状態。もともと酒蔵だった部分も鉄骨を入れたりして、耐震強度の基準をクリアするように建てられている。避難所としてのあり方としての意見は、第1回では出していない。

赤石委員 津波の際の避難所としての活用も、今後検討してはどうか。

事務局 市内の避難所は民間の建物なども指定をさせていただいている。津波を想定すると2階部分に避難ということになるが、海から近い位置に建っているため避難所としては適切ではない。また、2階のみだと狭く、収容人数が少ない。

古橋委員 スペースが狭いという話があったが、市として増築は検討していないのか。

事務局 南側の駐車場スペースは実際に車を停められる方がいらっしゃるので、全て増築スペースにすることはできない。元の酒蔵としての外観や雰囲気も大切にしたいので形状の変更など大幅な増築は難しく、現実的に考えて増築は中庭部分の検討程度にとどまる。また、第1回の委員会で説明した通り、現在はいく製展示を行っているスペースの上部は吹き抜け部分になっている。開館当時携わっていた職員から、その部分は将来的に床を敷いて利用することも可能と聞いている。

赤石委員 実際来館された方は台場公園を駐車場として利用している人が多い。正式に駐車場を台場公園にして元の駐車場部分に増築することもできるのではないのか。

事務局 台場公園、ゴールデンウィークやお盆の時期は水木しげるロードを訪れる観光客用の駐車場になる。そのため、観光客のピーク時には当館の来館者が停めることができないといった状況も懸念される。駐車台数を減らすことは検討してもいいかもしれないが、完全に駐車場を増築スペースにすることは難しい。

赤石委員 長い目で見ていくことが大切だと思うので、今後需要が高まるようにするには、提案したような方法も検討してほしい。

古橋委員 古い建物としての外観は大切にしていけるべきなのではないかと思う。

事務局 市議会から意見の出た、収蔵庫に保存されたハリセンボンのはく製などの収益化や道の駅構想についても意見を伺いたい。

金森委員 ハリセンボンのはく製の収益化について、よいと思うが何か付加価値をつけることが大切だと思う。例えば「嘘ついたらハリセンボン飲ます」という言葉に掛けて「正直者になる」など。ご利益があるなど、何かをつけないと売れないのではないかと思う。

景委員 ハリセンボンのはく製は売れるほどたくさん余っているのか。

事務局 現在全く使用していないものが約700体ある。開館当時からあるもののなの

で、作製されて20数年は経過している。状態としては目が取れてしまっているものもいくつかある。吊り下げるためにネジが入っているものと、入っていないものと2種類ある。

赤石委員 はく製は、穴を空けるなどの加工は可能か。

事務局 既加工がされているので、かなり硬くなっている。

赤石委員 付加価値という部分を考えるなら、ただはく製として売るよりお香焚きなどのひと加工が必要なのではないか。

古橋委員 700体あるといえど有限なもの。また、作製から20数年経っており全て売ることができるかもわからない。一時的にはある程度の財源が確保できるかもしれないが、今後の史料館の活用にとってどれだけプラスになるのかという疑問がある。例えば、これからも新しく作製・販売ができるものであれば名物の土産物にできるかもしれないが、ハリセンボンに関してはそうではない。また、仮に販売するとしても販売できる状態にするのにもコストがかかる。

景委員 販売するのなら、700体という数は少ないと思う。

面谷委員 要するに使わないしスペースを取るから売ってしまおうということか。

事務局 長い間箱の中にしまわれており、年に1回テレビ局などから貸してほしいと連絡がある程度。また、年に1回程度の頻度で来館者から「販売していないか」という問合せがある。箱の中で使う機会もなく眠ったままなら活用できる方がよいと考えている。

古橋委員 例えば、クリスマスシーズンにはツリーに飾るなど、展示として館内で活用できないか。

面谷委員 現在展示スペースにある「ハリセンボン通り」にLEDなどを入れて、劣化していったものから交換していくなどすれば余っているものも使用できるのではないか。常設展示には難しくても、イベントの展示に利用していけばよい。

古橋委員 現在展示してあるものも箱にしまっているものも作製時期は同じか。

事務局 同じ時期に作成されたものである。

古橋委員 売ってしまうよりは、ハリセンボン通りを延長したり、館のデコレーション等に利用したりできるとよい。

島田委員 伯州綿の拠点としての「道の駅構想」について。当時の協議の場に参加おり、具体的な話を聞いた。伯州綿だけの施設という訳ではなく、魚の要素（食べられるスペース）なども交えた道の駅のお話をされたように記憶している。「ここに来れば境港の美味しいものも食べられるし、弓浜餅などの境港の大切な文化にも触れることができる」というイメージ。当館は台場公園が隣接しており、駐車場も多くある。また、港があるため海外からのお客さんもキャッチすることができる。以上の点から道の駅をつくる場所としてとても適しているとのこと。自分自身この話はどうなったのか気になっていた。

伯州綿に限らずこの地域を活性化するという意味でもとてもよい構想であると当時感じた。

古橋委員 平成28年にこの質問が議会で出たということか。また、構想が出てその後何か進展はあったのか。

事務局 平成28年に実際に検討しないのかという質問をいただいた。また、この構想の進捗については現在ストップしている状態。建物の改修や指定管理者の見直しなどの必要もある。長い時間や莫大なお金がかかる事業になるため、担当者が市長と協議し、道の駅化について判断するのは時期尚早という結論に至った。当時は改修だけでも2億円程度かかる想定だと聞いていた。また、「食」の発信拠点としては、新しくオープンする直売センターを生かし、今後教育施設として当館と連携していくという方向性を検討している。また、伯州綿の拠点については、耐震強度の基準をクリアしていないことを理由に弓浜緋伝承館が利用できなくなった（見学など体験施設としての使用を停止、緋の制作などを行う団体のみ現在使用可能）。

渡辺委員 伯州綿や弓浜緋についての体験ができる場所は今現在ないということか。海とくらしの史料館ではそういったものを紹介するイベントは行っていないか。

事務局 何度か行っている。高機（たかばた）や綿などを、企画展示という形式で展示することはあるが、体験型のものは行っていない。一番の問題はスペースが不足していること。これがあるとよい、という意見を多くいただいているが、全て現在のスペースに入れることは困難。テーマの見直しや設定について、今後委員の皆さんと協議していきたい。

面谷委員 境港の文化の発信拠点を考えると、まずテーマとして「魚」「伯州綿」「港」が考えられる。さらに今日の意見で出た戦争や平和についての展示など、これらを全て館の中で展示は難しい。全て中途半端になってしまうおそれがある。海とくらしの史料館の1番の弱点は体験型でないこと。その要素がほぼゼロである。実際にそういった活動をしようとした時、スペースの問題、人員不足の問題などが挙げられる。全て展示が難しいのであれば、スケジュールを区切ってこの時期はこの展示をする、という展示のやり方をすればよいのではないか。

また、伯州綿の発信拠点については、非常に曖昧で、道の駅のようにものを売る目的になると、弓浜緋の展示になってしまう。伯州綿の発信拠点としての意味を持つのか疑問に思う。綿の栽培から製品になるまでの過程があるので、「手ぬぐいひらひら」を行った際にも史料等を集めたが、境港市内やその周辺で史料があまり残っておらず苦労した。足りないものは米子市や日吉津村から借りて展示をした。その際に感じた海とくらしの史料館の展示に関する課題として、設備が不足していることが挙げられる。直接人が触ってほし

くないもの・珍しいものを展示するための、ガラスケースなどの設備がない。難しいのでパネルを展示となると、非常に平面的な展示になってしまい、おもしろくない。

古橋委員 結局あれが欲しい、これが欲しいという意見は出るが、スペースが足りないという意見に落ち着いてしまう。存続させていくためにどんなテーマに絞ってやっていくかをはっきりさせないといけない。今後はそれを絞っていく協議を行いたい。単体でどれだけのテーマを行って、周りとはどれだけ連携していくか、そのテーマの中でどれだけの展示を行っていくかを考えた方がよい。

渡辺委員 ものも大切だが、子どもの学習につながるような施設にしていきたいなら、専門分野の知識を持った人材の確保は重要。

古橋委員 全体のテーマを決まった時、どこまで取り扱うかによってどれだけの知識を持った人材が必要かも決まっていく。必要な人材についても、検討していきたい。

また、学習施設を中心に現在話を進めているが、観光客も訪れる施設。その面もおろそかにせず、意識した施設にしてほしいと観光に携わる者としては感じる。

景委員 確認だが、1 階のケースに入ったはく製は移動できるという認識で間違いなかったか。

面谷委員 まだ移動するのかという協議は行っていない。実際にできるかできないかという情報も欲しい。連携していくためには、他の機関と重複するような展示になってはおもしろくないので、今後具体的な情報を参考にしつつ協議したい。

古橋委員 市場の整備状況やできる設備、誠道小学校が展示の場として本当に使えるのか、他に利用できそうな施設など、具体的な資料があるとより協議しやすい。次回以降はより具体的な情報を事務局に提示してもらい、協議したい。

第4回海とくらしの史料館のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和3年11月15日（月）16時00分～19時00分

会 場 上道公民館 集会室

出席者【委員会委員】

石原 幸雄委員（鳥取県水産試験場 場長）

景 愛子委員（境港水産振興協会 お魚ガイド）

古橋 剛委員（境港市観光協会 事務局長）

赤石 周平委員（境港青年会議所 理事長）

築谷 直人委員（境港市小学校校長会 会長）

面谷 明俊委員（海とくらしの史料館利用者代表）

【事務局】

市教委（松本教育長・松本生涯学習課長・竹内文化体育係長・松本主事）

市産業部（坂田観光振興課長）

市文化振興財団（佐々木常務理事・佐々木次長・大池館長）

欠席者【委員会委員】

檜山 盛生委員（境港総合技術高等学校 教諭）

渡部 万里子委員（海とくらしの史料館利用者代表）

島田 洋子委員（海とくらしの史料館利用者代表）

< 日程 >

7. 開会

8. 教育長あいさつ

3. 報告事項

（1）前回までの会での出た主な意見について

（2）小学生対象アンケートについて

（3）高校生対象ワークショップについて

4. 協議事項

（1）関係施設や水木しげるロードとの連携について

（2）にぎわい作りについて

（3）施設の今後のあり方について

5. 提言書について

6. その他

7. 閉会

<会議録（要旨）>

◆ 1 は省略

◆ 2. 教育長あいさつ

教育長 この会も今回で4回目を迎えた。前回は5月31日に島根大学の博物館の視察に参加をいただいた。会議としては3月末以来で久しぶりの会となるので、これまで委員のみなさまからいただいたご意見を確認していただく意味で過去の会の意見を最初にふりかえっていただきたい。また最近「海とくらしの史料館」に対する子ども達の意見を聞くために、高校生対象ワークショップ、小学4年生を対象としたアンケートを実施しておりますので、そういった意見も参考にさせていただいて、今回はメインとなる協議をしていただきたい。議題としては次第に挙げている通りである。限られた時間ではあるが、ご意見を頂戴したいと思います。

◆ 3. 報告事項

(1) 前回までの会で出た主な意見について

- ①海の展示について
- ②くらしの展示について
- ③他機関との連携について
- ④にぎわい作りについて
- ⑤建物の改修について

(2) 小学生対象アンケートについて

(3) 高校生対象ワークショップについて

事務局 上記(1)～(3)について説明

(委員からの質疑)

委員 (2)の小学生対象アンケートで、小学生対象アンケートで、当館へ行ったことがあるかどうか、との質問があるが、これは校区ごとの結果があるか。学校によっては校内行事で行くことがあるので、地域的傾向が大きいと思うが…。

事務局 今回はクロームブックの機能を使い、6校まとめてアンケートを取ったので校区ごとの結果は出ていない。

委員 私は境小学校の校長なので、アンケートとは別で4年生のところにいって生徒に聞いてみたが、実際2回以上行ったことあると手挙げた子が当校だけでも26名以上いた感じだった。今回はクロームブックを使用してのアンケートだったので、回答間違いをした子もいるかもしれないが、校区にある施設なので境小学校としては8割以上の子は複数回行ったことがあると思う。

また近年はコロナ禍や天候の関係で行けていないが、全校遠足でお台場が最終地点でその前に海とくらしの史料館に入って見学をしていたので、境小の子は卒業までには何回かは行けていると思う。なのでこの結果を見ると、やはり遠方の地区の子が行けてないのかなと思う。

委員 以前は、県内や岡山の学校から市場へ見学に来ていて、市場―漁協―当館って

いうのが定番だったので知名度としては結構あったと思う。

委員 当館のことを知っているが、行ったことがないという人は結構多い。市内の小学生も、近年はコロナの関係かもしれないがそもそも見学に来ていない。米子市や鳥取の方から来られることはありますが、それが当館に繋がっているかというところではない。市場を紹介する中で、当館のことも紹介してはいるが、学校はあくまで学校の行事という感じ。

委員 来年新しくできる市場にも展示スペースを設けて、当館へ繋げられたらと思っている。

委員 最近では教育旅行や修学旅行等で当館がコースに入ることはあるのか。

事務局 先月の話になるが、コロナの関係で県内の修学旅行はすべて県内となり、東部の学校は 20 校が来館した。それで先月 1 か月の入館者数が 4,490 人入っていて、これは過去 10 年のうち、単月で言えば最多。残念ながら西部の学校は、米子市の学校が 7 校ほど来たくらいだったが、今年に限って言えば、かなり多くの学校にきていただいた。

委員 今年多かったのはやはりコロナのせいという感じですね。

事務局 そうですね。恐らく県外が解禁になれば、東部の修学旅行で西部には来ないと思う。

委員 境港の小学生が当館へ行くかどうかはそれぞれ学校毎に決めるものか。

委員 そうです。ただ学校もカリキュラムに沿って決めているので、当館の展示物で学習の課題が解決するかっていうとそういう展示ではない。けれど、昔の道具を見に来て、そして魚も一緒に見るということを以前はしていた。今はコロナで行けていないが。

ただその分館長さんに、学校へ直接来ていただいて出前授業をしていただいた。

委員 社会科の中では水産業の盛んな地域ということで長崎港が載っている。まあ実際に長崎に行く必要はないので、それこそ境港の市場であったりとか、加工場とかに見学を従来は行っていた。「私たちの境港市」という本を市の社会学会で出版していて、その中には民具はもちろん、水産業などいろいろなことが載っており、机上で学習しようと思えばこの資料で十分学習ができる。ただ校外学習ができる環境であれば多くの学校が出かけていると思う。

委員 くらしの一部分になるかと思うが、伯州綿についてはどのように学習するのか。

委員 すべて把握しているわけではないが、社会というのは総合的な学習なのでテーマの中でどこに焦点を当てているかで、机上で学習だけの学校や、実際に伯州綿を栽培する学校などさまざま。

委員 先ほどのアンケートを見ると、圧倒的に 1 回行って終わりという子が多い。これは学校の行事で行っただけという子が多いのが現実だと思う。学習施設ということでそういう部分はあるかと思うが、興味をもってそのあと自分で能動的に来るような施設でないといけないと思う。当館の目標をどこにもっていくのかということにも関わってくると思うが、学習施設なのか、観光施設なのか。そ

の点について市としてはどのように考えているのか。

事務局 学習施設・観光施設どちらとしても可能性として広くとらえて検討していったほしいと思っている。はじめからどちらかありきという話ではなく、どちらもそれぞれの良さがあると思うので、それをこの検討会の中でしていただけたら。極端な話、学習施設ということであれば入館料も取らなくて良いということもあると思うし、観光施設ということであれば当然入館者数や利益についても考えていかなければならないので、それによって組み立ても変わってくる。

委員 学習施設として考えた時に、複数回行かない理由として、新鮮さや変化がない。なぜかというとな研究がされていないから。とにかく運営と管理。最近は館長の努力で新しい情報や展示も見受けられるが、根本的にそこをサポートする体制ができていない。人材の問題が大きい。そこを確保するのは重要ではないかと感じる。

委員 研究ということであれば、学芸員とは言わないまでもある程度精通した人が必要で、例えば海や魚の研究ということであれば、当然いろいろな情報は更新されていっている。そういったものがある程度反映できる人、あるいは来館者に興味を持ってもらって研究・調べるところのとっかかりを作ってあげるという意味では体験ものがあると良い。

委員 以前かにつこ館に勤務していたが、当館も含めこういった施設は、正直中学生以上はあまり来ない。子どもだけで来るとしたら近所の子どもが連れ立って来るくらいで、基本は親と来る。なので、ターゲットにするとしたら小学生。それも低学年で、せめて4, 5年生。それでなんで来てもらえるかといったら、魚を触ったりなどの体験コーナーがあることだったり、無料でお母さんが気軽に連れていける場所であること。もちろん学習ができることは大切だが、まず来てもらうって意味では、親子で楽しめる体験型の何かがあると良い。

委員 ・学習施設ということを見ると展示内容も含め不十分であるが、観光客も含めた人が来てくれる施設として、学校の方では学習の成果発表の場として利用している。

・お母さんが小さい子どもを安心して気軽に連れていける施設だと良いなと思う。過去の議事録にもあるが、そこでタッチプールとかの体験ものがあるって、子どもたちを引き付けることができれば、また連れてこようかなと思ってもらえる。そうして何度か来るうちに子ども達が愛着を持って、また中学生・高校生、社会人になってからでも境港にはああいう珍しい施設があるよって、知り合いに伝えたりして、そういう風に広まってくると良い。

◆ 4. 協議事項

(1) 関係施設や水木しげるロードとの連携について

委員 ・過去、水産市場からシャトルバスが出ていた時代もあった。それは恐らく企業さんが独自でされたものだと思うが、例えばはまる一歩バスの運用の仕方、関係機関を繋ぐような便があっても良いのではないかな。

資料 7

- 委員 ・他の関係機関での各会議にも参加しているが、どこの会議でもこれらをどう繋げていくかは議題に上がる。それぞれの施設にお互いをPRする共通ブースを作っても良いのではないかな。
- 委員 ・市場の方には駐車場はないので、そうすると台場公園の駐車場に止めて歩いてこられる方は多い。
- 委員 ・歩いて来られる方もおられるが、それは明確な動機があるから。それが当館にもあれば良いのでそこをどう作っていくか。
- 委員 ・バスを走らせるにも、お客さんが多い時期はともかく、閑散期には利用がほぼなくなってしまう。以前あったシャトルバスとかもそういった理由で走らなくなってしまったのではないかな。
- 委員 ・距離的に言えば、台場公園・当館からなら市場との行き来については動機付けさえちゃんとしていけば連携できると思う。例えば、何かイベントやスタンプラリー等、両施設に行かないと成立しないものがあったとしても良いのではないかな。
- 委員 ・PRブースっていうのはとても良いと思う。チラシとか紙媒体の物をあまり見ない方も一定数いて、そういう人でもそのコーナーを見て一目でどんな施設があるかわかるっていうのは新しい伝え方としてインパクトがあるし、きっかけ作りとしては意味がある。子どもは最初あまり興味がなくても、行ってみたら楽しめる能力がある。まずは足を向かせることが大事。
- 委員 ・大人でもあつと思うはく製がたくさんあるので、そこを活かしていくべき。あとは、以前から議題に出ているが展示の仕方。どのように表現するのか。
- 委員 ・おさかなコンテストは当館の来場者のみが応募できるのか。
- 事務局 来場者でなくともはがきで応募することができる。
- 委員 当館でスケッチするとかそういったことはないのか。
- 事務局 当館には流し台がなく、水彩画を描く環境がない。
- 委員 体験型のひとつとしてはく製を見て描けたら良いと思う。例えばそこで描いて終わりではなく、描いた魚の生態を調べてみるとか。
- 委員 かにっこ館では、イベント期間を設けてスケッチをしてもらい、その絵を展示するようなのは人気があった。投票させたりすると余計にみんなが見る。それで何名かには賞品を出したりして。水彩じゃなくて色鉛筆とかでも良い。イベントのやり方の一つとして、絵はとても良いと思う。
- 委員 行ったら子どもたちに刺さる部分は絶対あると思うけれど、それを伝えきれていないのが現状。パンフレットにしても、さっきのPRブース等にしても、何が子どもたちに刺さるのかを考えてやらないといけない。
- 委員 境港は他のことに関してもそうだが、個々でPRをしていて、一見して市内でどんなイベントがあるかっていうのが分かりにくい。
- 委員 観光協会では今HPを新しくしているところで、まだ充実ができていないが、今考えているひとつとして、市内のモデルコースを作って掲載したいと思って

いる。例えば友人と、家族と、ひとりでなど、パターン別のコースを複数つくり、こういうところをこのくらいの時間で回れますよっていうのを今まとめている。そういうのも活用してもらって、行く前にはネットで情報収集ができて、現場ではさっきのPRブースみたいなもので情報収集ができる形にできたら良い。

(2) にぎわい作りについて

委員 ・市民の利用に関して、市民の入館料を無料にするというのは一つの手段ではないか。直接イベントという形でのにぎわい作りではないが、その後押しになる。

・市民が無料ということであれば、イベントの形も変わってくる。改築の話も絡んでくるが、2階を増設した時にそこを利用する学習発表会などをした時に、そこに来る人だけは無料、ほかの人は有料、だと少しややこしい。市民は無料ということであれば、その問題や当館の手間も減るのではないか。

委員 実際、入館料は館の運営にどれくらい寄与しているのか。あまり大きくないのであれば、本当に市民無料にしてしまうのも良いと思う。ただ、一回無料にしたなら、その後有料に戻すのは難しい。

事務局 ・概ね運営費の3割くらい。入館料の金額としては、令和元年度が年間400万円ほど。ただし、その中で市民からいくらもらっているかと言うと、微々たるものである。市民の方は手ぬぐいひらひらのイベント等、無料の日を狙って来られることが多い。県外からお客さんが来られた時に引率で渋々入館料を払って入られるということはある。

・(館長)個人的には、入館料の無償化もしくは引き下げはとても良いと思う。特に子どもについてはぜひ検討してもらいたい。

委員 ・今年、各公民館でサメ展が開催されていたが、私が聞いたところでは見に行った各学校の子どもたちが非常に喜んでいと。展示と比べたらはるかに小さいはく製でもとても喜んでいと聞いたので、もし無料でもっと大きなはく製たちを見られると知ったら、興味を持つ子どもは絶対にいる。

・サメ展に来られた一般のお客さんがどれくらいいたかは聞いているか。

事務局 盛況だったのは間違いないですが、今手元にデータはないです。ただ、地域の方も多く来ていただいたのは間違いない。

委員 そういった方たちも市民無料ということであれば絶対来られますよね。

事務局 実際サメ展をさせていただいた時に、リピーターというか、当館へはく製を見に来館していただいた方は結構おられた。6、7月は入館者数も増えていた。

委員 年間パスポートはありますか？

事務局 大人のみですが、年間1,000円であります。金額としては、3回分の料金より少し安くなるくらいが標準。今登録していただいているのがだいたい130人程度。

主に買われるのは、お魚が本当に好きな方だったり、あとは幼児を連れている

お母さんが多いですね。

- 委 員 市民以外のところで現行に近い収入が得られるということであれば、市民の入館料は無料とすることでにぎわい作りというか、入館者数を増やすことはできるのかなと思う。

(3) 施設の今後のあり方について

- 委 員 関係施設との連携を図って集客を増やすということを考えるのであれば、観光という側面も無視できないと思う。そのバランスは難しいところであるが、観光施設も兼ねた学習施設という位置づけになるのかな。あとは、先ほど出た市民無料ということになれば、市民の方にも普段から訪れてもらえると思う。

- 委 員 収蔵庫の件で、以前話に出た旧誠道小学校を利用するのは難しいと聞いている。そうすると、駐車場部分については増築エリアとするのは難しいという話だったが、すべてを増築は難しくとも、今軒をだしている4、5坪の範囲だけでも収蔵庫を拡張するような形が取れば、収蔵庫にももう少し余裕ができると思う。

- 委 員 実際に展示するものだけではなく、収蔵スペースは必要だと思う。だが、まずは今ある施設の中が有効的に使われているのかっていうのを検証すべき。これから改築に向けて検討していく中で、実際にどのくらいのスペースがいるのか、それはこれから提言を出した後に、事務局の方で検討していただくことになるのかと思います。

- 事務局 過去の意見の中で、くらし部分の展示についてどうしていくかというのが大きな議題になっていた。くらしの中でも、農具もあれば、漁具や伯州綿もあるので、そのあたりの方向性をまとめていただけたらと思っております。

- 委 員 収蔵スペースと関係してくると思う。すべて同時に展示するっていうのは、スペース的に不可能で、無理やりしても魅力的な展示にはならない。民具が十分にあればという前提ではあるが、例えばシーズン毎に分けてであればできるのではないかなと思う。ただし、そうするとその期間以外は収蔵庫にしまっておく必要があるので、収蔵庫の拡大は必須となる。

- 委 員 くらしの展示についてのニーズはどのくらいあるのか。

- 事務局 ほぼないです。年に1、2回民具が好きな方が見に来られるくらい。その他唯一ニーズと言えるのが、小学校の授業で利用されるくらい。これがだいたい1月から3月頃になるので、ちょうど当館の閑散期と重なっている。なので、1月から3月は民具の展示期間とするという形はできると思う。

- 委 員 今コロナの関係で校外学習ができず、昨年から館長さんに出前授業をいただいている。学校としては、館長さんに持ってきていただいて、実際に民具を見ながら説明を聞けるっていうのはとてもありがたいこと。館長さんが忙しくて、とても行けないということであれば仕方ないが、今の形で来てもらえるとそれで充分学習ができる。

- 委 員 海に関するくらしの展示として、新しくできる市場の展示の内容によって、当

館でどのようにすべきかも関わってくると思う。伯州綿に関する展示はあっても良いと思う。境港は、伯州綿と謳ってはいるが、伯州綿についての情報を見ることができるところがないので、それを当館ですというのも良いと思う。

委 員 今の民具があまり揃っていない状態で中途半端に置いていても、ニーズがないのであればあまり意味がない。展示するのであれば、テーマを絞った形でやる。それは伯州綿でも良いし、展示に限らず何か体験ができるコーナーであっても良いのではないか。

事務局 綿に関してですけど、これに関しては境港市だけではなくて、米子市も含めた弓浜部の文化財ということもありまして、エリア的に捉えて展示や保存を考えていく必要があるという議論も別で動いておりますので、そこでの議論も踏まえた総合的な判断が必要になるのではないかとというのが事務局として考えているところです。

◆ 5. 提言書について

事務局 「提言書目次案」について説明

※委員から特に質疑なし

事務局 「改修イメージ図」について説明

委 員 子どもたちにとってみなと丸の人気はとても高く、完全撤去は寂しく思える。

事務局 ・元は外に別の船があったが、風雨にさらされ、壊れてしまった。
・屋内で船に乗れるというのはとても貴重な機会であるが、みなと丸については補修できるかどうかは定かではない。

委 員 中庭の遊具については、近くに台場公園もあるので、普通の遊具を配置するよりは、例えば海浜公園とかにあるような、そこまで大きくなくても良いが船を模した遊具があると良いのではないか。検討してもらいたい。

◆ 6 は特になし

◆ 7 は省略

資料 8

○海とくらしの史料館 漁具収蔵品

番号	名 称	番号	名 称
1	沈子（おもり）	14	錨（いかり）
2	ルアー	15	オシロスコープ
3	浮子（うき）	16	いか釣り機
4	釣り道具入れ	17	たこつぼ（小）
5	釣糸 釣糸枠	18	集魚灯
6	釣糸枠	19	舷燈（左舷燈）
7	釣り針	20	ふぐとり器
8	車海老漁の網	21	刺し網
9	網（手操網）	22	貝殻ジョレン
10	魚籠（びく）	23	おもり
11	かにだも	24	わかめとり・もずくとり
12	カンテラ	25	手作りの釣り竿
13	大漁旗	26	浮子（ガラス）

○展示参考例

ジオパークと海と文化館（兵庫県香住町）

